

2023年9月17日(日)

日本キリスト教団 <sup>きゅうほうきょうかい</sup>久宝教会  
第66巻第24号(通算3356号)  
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう  
週報

教会標語

かみさま <sup>ひと</sup>神様がすべての人と <sup>とも</sup>共におられる  
ことを証ししていく <sup>きょうかい</sup>教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:5)



けいろう ひれいはい  
敬老の日礼拝

せいれいこうりんせつ だい しゅじつれいはい  
(聖霊降臨節 第17主日礼拝)

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂けます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしやうめつ  
前 奏 黙 禱 AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しんと てがみ しょう せつ  
招きの詞 コロサイの信徒への手紙 3章 11, 15節

きんび ばん かみ こ  
賛美歌 21-194番「神さまはそのひとり子を」(©JASRAC)

せいしょ ふくいんしょ しょう せつ  
聖 書 ルカによる福音書 15章 11-32節

いの  
お 祈 り

きんびか ばん ゆ ゆ  
賛美歌 21-437番「行けども行けども」(©JASRAC)

メッセージ「あなたもキリストの一人」 <sup>うしだ ただし ぼくし</sup>牛田 匡 牧師

きんびか ばん し きやうだんさんびかいいんかい  
賛美歌 21-442番「はかりも知れない」(©教団讃美歌委員会)

しゅいの ばん てん ちち きやうだんさんびかかいていいんかい  
主の祈り 62番「天にいます わたしたちの父」(©教団讃美歌改訂委員会)

ささげもの  
献 げ 物 (\*)

はけん ばん かみ めぐ う せつ  
派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅくふく しょう せつ  
祝 福 <sup>うしだ ただし ぼくし</sup>牛田 匡 牧師

こうそう ばん きやうだんさんびかいいんかい  
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讃美歌委員会)

ほうこく ページ さんしょう  
報 告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\*「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ ようい かた ささ  
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

まね ことば  
招きの詞

コロサイの信徒への手紙 3 章 11, 15 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>11</sup> そこにはもはや違いはありません。キリストが全てであり、全てのものの内におられるのです。<sup>15</sup> 平和のために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。

聖書 ルカによる福音書 15 章 11-32 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>11</sup> また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。<sup>12</sup> 弟のほうは父親に、『お父さん、私に財産の分け前をください』と言った。それで、父親は二人に身代を分けてやった。<sup>13</sup> 何日もたたないうちに、弟は<sup>a</sup>何もかもまとめて遠い国に旅立ち、そこで身を持ち崩して財産を<sup>b</sup>無駄遣いしてしまった。<sup>14</sup> 何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。<sup>15</sup> それで、その地方に住む<sup>c</sup>裕福な人のところへ身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって、豚の世話をさせた。<sup>16</sup> 彼は、豚の食べるいなご豆で腹を<sup>d</sup>満たしたいほどであったが、食べ物を与える人は誰もいなかった。<sup>17</sup> そこで、彼は我に返って言った。『父のところには、あんなに大勢の雇い人がいて、有り余るほどのパンがあるのに、私はここで飢え死にしそうだ。<sup>18</sup> ここをたち、父のところに行って言おう。「お父さん、私は天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。<sup>19</sup> もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。』<sup>20</sup> そこで、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、<sup>あわ</sup>憐れに思い、走り寄って首を抱き、<sup>せつぷん</sup>接吻した。<sup>21</sup> 息子は言った。『お父さん、私は天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』<sup>22</sup> しかし、父親は<sup>しもべ</sup>僕たちに言った。『急いで、いちばん良い衣を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足には履物を履かせなさい。<sup>23</sup> それから、肥えた子牛を引いて来て<sup>ほふ</sup>屠りなさい。食べて祝おう。<sup>24</sup> この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。<sup>25</sup> ところで、兄のほうは畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りの音が聞こえてきた。<sup>26</sup> そこで、<sup>しもべ</sup>僕の一人を呼んで、これは一体何事かと尋ねた。<sup>27</sup> <sup>しもべ</sup>僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』<sup>28</sup> 兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。<sup>29</sup> しかし、兄は父親に言った。『このとおり、私は何年もお父さんに<sup>つか</sup>仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、私が友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。<sup>30</sup> ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身代を食い潰して帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。』<sup>31</sup> すると、父親は言った。『子よ、お前はいつも私と一緒にいる。私のものは全部お前のものだ。<sup>32</sup> だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。喜び祝うのは当然ではないか。』

(脚注 a: 別訳「全部を金に換えて」、b: 別訳「ばらまいて」、c: 直訳「市民」、d: 別訳「満たしたかったが、どの豚も譲ってくれなかった」、d: 直訳「失われていた」)

## 《先週のメッセージより》9月10日

「手放したことで見えるもの」より

牛田匡牧師

聖書 ルカによる福音書 14章 25-35節

イエス様はご自分の周りに集まって来た人々に対して、「自分の家族も、財産も、捨て去る覚悟がなければ、私の弟子になることはできない」という厳しい言葉をかけられました。しかし、その一方で、漁師としての生業も舟も家族も、それらの全てを捨ててイエス様に従った弟子たちですら、イエス様からはいつも「信仰の薄い者たちよ」と言われていましたし、さらには胡麻粒よりも小さな辛子種一粒ほども信仰がないとすら言われていました(ルカ 17:5-6)。では誰がイエス様のお眼鏡に適ったのでしょうか。それは例えば異邦人の百人隊長であったり(ルカ 7:1-10)、異邦人の女性であったりしました(マタイ 15:21-28)。当時のユダヤ人の常識では、異教徒である異邦人は神様の祝福の外にいる人たちだと見なされていまして、異邦人が異邦人のままで評価されるというのは、考えられないことでしたが、イエス様は、弟子になっただけでもない異邦人たちを、異教徒のそのままでも高く評価されました。言い換えれば、全てを捨てるのか捨てないのか、従うのか従わないのか、そのようなことで自他を価値判断しようとするのが無意味だということでしょう。イエス様が言われたのは、そのような価値観に対して見切りをつけよ、ということだったのだらうと思います。本当に大切なものを失ったら、それは「塩気を失った塩」のようなものではないかということです。

では、その「本当に大切なもの」とは何でしょうか。それはイエス様がこの地上での歩みを通して示された「小さくされている人たちを大切にすること」という感性ではないかと思います。しかし現代社会の中では「小さくされている人などいない」、始めから事故も問題も何も起こっていないかのように、事実を隠蔽しようとする暴力が、広く強く働いています。そしてその暴力は無意識のうち私たちに一人一人にまわりついて来ています。今、私たちの身動きをとりにくくしているものは何でしょうか。責任とか、立場とか、役割とか、様々なものがあるかと思っています。それらは自分自身の「塩気」を吸い取ってしまっていないか。自身の塩気を失くしてしまうもの。それらに見切りをつけ、それらを脱ぎ捨て、もっと身軽に、自由になること。それらを「手放したことで見えるもの」があるのではないかと思っています。イエス様について行く人に求められる福音の感性、自分の隣にいる「小さくされている相手」を大切にしようとする気持ち。その心をもって、私たちは今週も歩み出していきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 (9月10日)

礼拝出席 大人4名 献金 大人3,000円 中継視聴者数6回 感謝

◎次週 2023年9月24日(日) 聖霊降臨節第18主日礼拝

招きの詞 箴言 17章 17節

聖書 ルカによる福音書 16章 1-13節

メッセージ「友だちをつくる」 牛田匡牧師

賛美歌 21-360 (©P.D.)、21-201 (©JASRAC)、21-421 (©教団出版局)

礼拝の中で、今年度9月までにお生まれの方々の「誕生者祝福式」を行います。また礼拝後には、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行って、いこい食堂にお届けする予定です。どなたでもご参加ください。

◎お知らせ

・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。感染症や熱中症の予防のためなど、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。

・次週、9月24日(日)14時~16時半にかけて、枚岡教会にて、河内地区合同壮年会が開催されます。枚岡教会の浅見覚牧師による礼拝の後、小阪教会の壮年会会長・中村賢治郎さんによる発題「らくらく伝道の方法」、その後に映画「100歳の少年と12通の手紙」(エリック・エマニュエル・シュミット監督、2009年、102分間)の鑑賞などがあります。【映画のあらすじ】主人公である10歳の好奇心旺盛な少年オスカーは、白血病を患い小児病棟に入院していた。彼は自分の病気について口を濁す両親や医師にいら立ち、特別扱いをされることにも飽き飽きしていた。そんなある日、オスカーは病院に宅配ピザの配達に来ていたローズと廊下でぶつかり、彼に悪態をつく彼女をひと目で気に入る。

「壮年会」以外の方でも、どなたでもご参加いただけます。

◎ 次週以降の行事予定

|       | メッセージ | 行事  |
|-------|-------|---|
| 9/24  | 牛田牧師  | 誕生者祝福式・おにぎり支援<br>(河内地区壮年会<br>14時~16時半@枚岡教会) |
| 10/1  | 水谷牧師  | (世界聖餐日)ユウカリスト                               |
| 10/8  | 牛田牧師  | 教会を考える会                                     |
| 10/15 | 牛田牧師  | 収穫感謝礼拝・おにぎり支援                               |

